



出前授業「戦争と花巻」の紹介

10月10日に西南中学校で「戦争と花巻」の出前授業を行いました。西南中学校では、1年生の時に高村光太郎の学習をしているので、花巻空襲後に光太郎が「非常の時」という詩を書いていることに関わって、その花巻空襲がどんなものだったのかを学ぶための出前授業でした。

花巻空襲に関する被害の状況などの解説を聞き、実物資料を観察することで、光太郎が詠んだ詩の「背景」について、実感を伴って理解できたようでした。



スライドで花巻空襲を解説



爆弾破片の重さに驚く



兵士の衣服などの解説



兵士の遺品などの解説



当時の生活の様子



花巻空襲で投下された500ポンド爆弾と背比べ

非常の時 高村光太郎

非常の時 人安きをして人を救ふは難いかな
非常の時 人危きを冒して人を護るは貴いかな
非常の時 身の安きと危きとを両つながら忘じて
ただ為すべきを為すは美しいかな
非常の時 人斯の如きを行ふに堪ふるは
偏に非常ならざるものの内にありて
人をして斯の如きを行はしむるならざらんや
大なるかな 常時胸臆の裡にかくれたるもの
さかななるかな 人心機微の間に潜みたるもの
其日爆撃と銃撃との数刻は 忽ち血と肉と骨との巷を現じて
岩手花巻の町為に傾く
病院の窓ごとごとく破れ 銃丸飛んで病舎を貫く
この時従容として血と肉と骨とを運び
此時自若として病めるものをまもるは
神にあらざるわれらが隣人 場を守って動ぜざる職員の諸士なり
われ此をきいて襟を正し
人間時に清く 弱きものの亦時に限りなく強きをおもひ
うちにかくれたるものゝ高きを 凝然としてたゞ仰ぎ見るなり

参考：光太郎の詩「非常の時」

※空襲時に自らの命を顧みず負傷者を救護した医師や看護学校生の話を聞き、感銘を受けて作ったとされる。
※「襟を正し」「凝然として」等から、強い衝撃だったことが伺われる。

生徒の感想（一部省略・変更）

- ・今の平和な日本からは戦争は想像しづらかったけど、軍服などのその時代にあった実物を見て、本当にあったんだと社会や国語で習った時とは違って身近に感じられた。駅空襲で亡くなった女性は教員になったばかりだったと聞き、もっと生きたかっただろうなと心が苦しくなった。
- ・最初の解説で、花巻にも空襲があったことを初めて知った。実際に資料にふれたとき、本当にあったんだと実感できた。召集令状を渡された人はどんな思いで戦争に行ったのだろう？この爆弾で何人の命が奪われたのだろう？と、とても苦しくなった。
- ・まだ学校で勉強している若い看護婦さんが、とても悲惨な光景にもかかわらず、必死にけが人の応急措置をしていたことが心に残った。自分がその立場だったら、動けず助けられなかったと思った。これからは、昔の戦争や今も起こっている戦争を忘れないようにしたいし、今、当たり前に行っていることに感謝して生活していきたい。

裏面へ続く

花巻市博物館特別展

佐川美術館コレクション

平山郁夫展

多くの来館者の方々に
ご好評をいただいて **閉幕**

日本画の巨匠であると同時に
平和を求めて行動し続けた平山
氏の作品を鑑賞していただき、
ありがとうございました。

次の展示は「次世代へつなぐ
花巻の歴史」というテーマ展で
す。花巻市史の調査で明らかにな
ったことなどを展示します。

(1/31 土～4/12 日)

小学校3年生の先生へ

出前授業「昔の道具と暮らし」のお知らせ



R6 矢沢小

3学期になると、3年生の社会科では「昔の暮らし」
の学習が始まります。例年、多くの学校が出前授業「昔
の道具と暮らし」を希望されています。

出前授業の良さは、**実物を見てさわれる**ことと、**丁寧
な解説**です。昨年度は16校中11校が実施しました。

そこで、3学期にこの授業を希望される予定の3年生
の先生には、可能であれば学校の3学期の予定を確認して、早めに申し込まれること
をお勧めします。遅くなると希望日が埋まってしまっている
可能性が出てきます。

※現在、1月の最終週(1/26 月～1/30 金)は実施が難しい
状況なので、翌週に希望校が増えることが予想されます。

実施を希望される場合は次の手順で依頼してください。



R6 太田小

- ①出前授業希望日と打ち合わせ※1希望日をそれぞれ3日程度ずつ考える。
- ②博物館ホームページの「学校の先生方へ」の中の依頼フォームに必要事項
を打ち込み送信する。
- ③博物館からOKの返事※2が来たら、打ち合わせの希望日を伝える。

※1：基本的に来館して行うようにお願いしていますが、経験者は電話だけの打ち合わせも可能です。

※2：不可の場合も連絡します。その場合は、相談に応じます。

【記念講演会②】の紹介

10月4日(土)に、佐川美術館学芸員の藤井
康憲氏による「平和を祈り描き続けた画家・平山
郁夫—その画業と生涯」をテーマにした記念講
演会が行われました。

講演は、前半に平山氏が仏教伝来の道・シルク
ロードを生涯のテーマにした経緯やその作品群
の紹介と、平山氏の考える仏教の世界観や平和
な世の実現への渴望などを紹介し、後半は実際
の展示を観ながら作品の背景を解説しました。



※中央の奥が佐川美術館学芸員 藤井康憲氏

参加者は、前半の講演で新しい事実を知って
驚き、後半は作品の背景を聞いた上で鑑賞する
ことで、重層的に作品を理解できるようになっ
ていたようでした。